



子どもたちの自尊感情を高める取組み



～子どもたちも動き出してくれました～



早いものでクリスマスの時期となりました。思えばまだまだ暑かった8月の末にスタートした2学期ですが、季節も夏、秋、冬と流れ、本日無事に2学期の終業式を迎えることができました。無事とは書きましたが、この2学期もいろいろなことがありましたし、子どもたちの中には友達関係や学習の伸び悩みなど、子どもなりにしんどい思いをした子もいたことだと思います。今も悩みや不安で重い気持ちでいる子どももきっといるだろうという思いで、これからも私たち教職員は、子どもたちの日々の小さな変化も見逃さず、温かく子どもたちを見守り、寄り添っていきたくと強く思っております。しかし、2学期も大過なく過ごせたのは、保護者の皆様のご協力、ご理解をいただいたからこそのことと、心より感謝申し上げます。

さて、今学期は「子どもたちの自尊感情を高めるには」をテーマに、保護者の皆様にも一緒に考えていただきたいと投げかけさせていただきました。以前にも書きましたように、私たち教職員もできることから始めようということで、「ありがとう」をはじめとする肯定的評価の声を、積極的に子どもたちにかけていくことをやってきました。そして教職員には、子どもたちの頑張りを見つけたら通信等でも発信したいので、私にもどんどん教えてほしいというお願いをしました。私のもとにうれしい声が届きました。



- 授業の用意などを持って移動をしていると、生徒が「手伝いましょうか」とよく声をかけてくれます。
- 授業中に生徒がこちらからの質問に答えにくそうにしていると、その子に解答を導くための「考え方」をその生徒に助言してくれる生徒が何人もいます。
- 授業でパワーポイントを作らせているのですが、すごく上手でびっくりします。子どもたちのICT活用力がすごいです。
- 学校通信に名前を載せたところ、「名前を載せてもらってありがとうございました」とわざわざお礼を言いに来る生徒もいます。

上記はその一例です。この取組みをやりだして、以前にも増して教職員の子どもたちを見る目も温かくなったように感じます。

教職員が肯定的評価の声掛けを意識して取り組んでいる中、子どもたちも動きだしてくれました。学校通信等やHPでこれまでもお知らせしている「サンクスツリー」の取組みです。「吉中の子どもたちの自尊感情を高めたいんだけどなあ」ということを、生徒会役員にも相談してきました。ちょうど後期の生徒会役員はクリスマスイベントとして何か取り組みたいと公約でも謳っていたので、それに合わせて考えてくれたのが「サンクスツリー」の取組みです。大きなクリスマスツリーをかたどった枠の中に、友達の素敵な部分を見つけて、「ありがとう」の言葉とともにカードにメッセージを書いてツリーに貼っていくというもの。校舎の玄関を入ったら、ピロティーの大きな円い柱に貼られたツリーが目の前に飛び込んできます。そのツリーに貼られる数々の「ありがとう」のメッセージが、日に日に増えていき、あっという間にツリーの枠をはみ出して貼られるほどになりました。ほんの少しですが紹介します。



○いつも優しくおだやかで、授業も行事もすべてに一生懸命でいてくれてありがとう。

○毎授業、素敵な笑顔を見せてくれてありがとう。

○毎回授業に行くのが楽しいです。

○ささいなことでも「ありがとうございます」と気持ちのよいあいさつをしてくれる人がいっぱい。幸せな気持ちにさせてくれてありがとう。

○いつもいろいろ教えてくれてありがとうございます。大好きです。

○わからないことを教えてくれてありがとうございます。

○みんな笑顔でいてくれてありがとうございます。

○いつもご飯をつくってくれてありがとう。

○産んでくれてありがとう。(保護者の方に向けて)

○一緒に班長してくれてありがとう。



まだまだ紹介したいカードが山ほどあります。上記には生徒だけでなく教職員からのメッセージも含まれています。あっという間にツリーいっぱいになったので、まだまだ貼りたいけど貼るのを遠慮している生徒もいると思います。これから生徒会に相談して、この取組みがこれで終わってしまうのではなく、うまく発展させる形でつながっていく方法を探ってくれたらと思います。

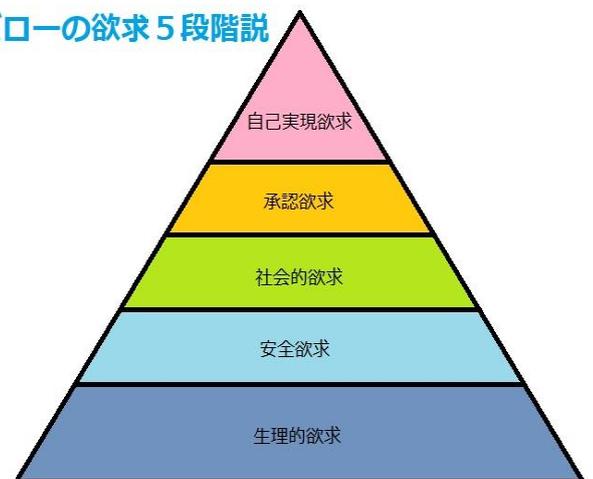


コロナの感染状況が落ち着いてきたこともあって、2学期は体育大会をはじめ、大きな行事も概ね計画通りに実施できたこともあり、子どもたちも活躍の場が増え、充実感や達成感を味わえる瞬間がたくさんありました。そういうこともあり、1学期の時以上に子どもたちが生き生きしていたように感じます。それに加えて、「ありがとう」の声掛けや「サンクスツリー」の取り組みなどで、子どもたちの自尊感情は高揚してきているように感じます。自分が好きと思える子どもも増えているように思います。体育大会のあいさつでも言ったのですが、子どもたちにはもっと「はじけてほしい」と思っていました。しかし今学期はかなりはじけてくれたように思います。吉中生らしく、悪ふざけや調子に乗りすぎるということではなく、秩序を保つ中ではじけてくれたように思います。ただ、もっと大きくはじけて活躍できるポテンシャルは秘めていると思っています。

最後に、私が生徒集団や教職員集団のことを考えるときにイメージする図があります。右図の「マズローの欲求5段階説」というものです。アメリカの心理学者である「アブラハム・マズロー」が考案した心理学の理論ですが、人間の欲求は「生理的欲求」、「安全の欲求」、「社会的欲求」、「承認欲求」、「自己実現欲求」の5段階になっており、それぞれの欲求が順番にピラミッド状の序列になっているというものです。下の欲求を満たすことで、一つ上の欲求を持つようになり、最高位である「自己実現」へと近づくという理論です。空腹など生命維持に必要な生理的欲求などを満たさずして、いきなり自己実現へのステップにたどり着くことはできないため、順番に欲求を満たしていくことが必要というものです。

この理論を参考にし、私は本校の子どもたちのことも考えます。最高位の欲求、すなわち「自己実現欲求」を子どもたちが抱き、自己実現に向けて頑張ろうという意欲を持つためには、その下の「承認欲求」が満たされてこないと意欲は沸きません。本校で今、子どもたちや教職員で取り組んでいるのが自尊感情を高めるための取り組みは、まさにこの「承認欲求」を満たすための取り組みで

マズローの欲求5段階説



す。その「承認欲求」を満たすための取組みによる効果を生むには、その下の「社会的欲求」や「安全欲求」、そしてすべての基盤の「生理的欲求」を十分に満たす必要があります。この三つの欲求を満たすために大切なのが、学校と家庭だと思えます。学校や家庭が、子どもたちにとって安心できて、そして居心地がよく、帰属意識が高まるような場であることが、何より大切になってきます。これまでに子どもたちの自尊感情を育むために、保護者の皆様にも一緒に考えてほしいとお願いをしてきていますが、これからも皆様との連携をより密にし、協力しながら、子どもたちが一つ一つの欲求を満たし、意欲的に人生を歩み、自己実現に向けて頑張っていけるように応援していければと思います。

3学期にも保護者の皆様とともに考えていきたいこと、連携させていただきたいことなどを発信していきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

